

カードファイラーマニュアル

目次

カードファイラーでできること.....	2
カードファイラーの起動.....	3
トップ画面.....	4
メニューバー.....	4
MIDIドライバの設定.....	5
MIDIポートの設定(Windows).....	5
OMSの設定(Macintosh).....	6
ファイル受信(コンピュータに保存する).....	7
ファイル送信(メモリーカードに送信する).....	9
コントロール(メモリーカードの編集).....	11
ファイル/フォルダの削除.....	11
ファイル/フォルダ名のリネーム(名称変更).....	12
SMF変換.....	13
エラーメッセージリスト.....	15

- ・ 市販の音楽/サウンドデータは、私的使用のための複製など著作権上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で複製または転用することを禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いします。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルの著作権はすべてヤマハ株式会社が所有します。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルの一部または全部を無断で複製、改変することはできません。
- ・ このソフトウェアおよびマニュアルを運用した結果およびその影響については、一切責任を負いかねますのでご了承ください。
- ・ このファイルに掲載されている画面は、すべて操作説明のためのもので、実際の画面と異なる場合があります。
- ・ このマニュアルファイル内の「赤色」の文字をクリックすると、関連する項目にジャンプします。
- ・ 「MIDI」は社団法人音楽電子事業協会（AMEI）の登録商標です。
- ・ その他、このファイルに掲載されている会社名および商品名は、それぞれ各社の商標または登録商標です。

このマニュアルは、お客様がWindows/Macintoshの基本的な操作方法について十分おわかりいただいていることを前提に書かれています。Windows/Macintoshの操作方法については、Windows/Macintoshに付属のマニュアルをご参照ください。

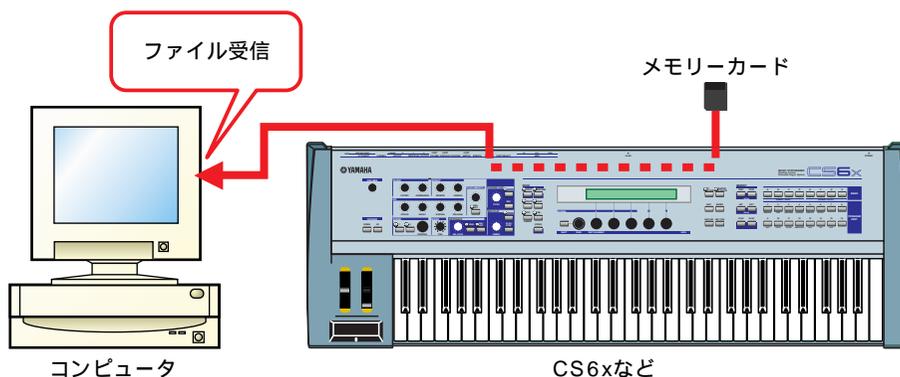
カードファイラーを使用するために必要なコンピュータ環境、機器の接続、カードファイラーのインストールについては、別冊の「インストールガイド」およびご使用のMIDI機器に付属の取扱説明書をご参照ください。

カードファイラーでできること

カードファイラーを使うと、コンピュータ上にあるMIDIファイルをMIDI機器(シンセサイザー/トーンジェネレーターなど)のメモリーカードに送信したり、MIDI機器上のデータをコンピュータに保存したりすることができます。大きく分けて、以下の4つの機能があります。

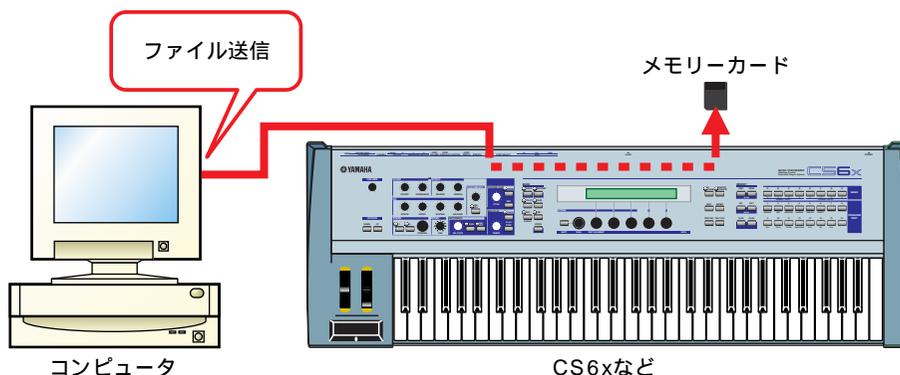
ファイル受信

MIDI機器のメモリーカード上のファイルをコンピュータに保存します(P.8)。



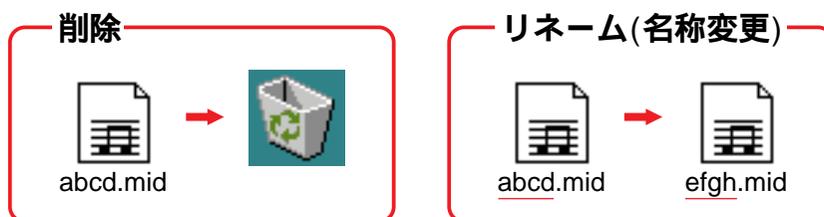
ファイル送信

コンピュータに保存されているファイルをMIDI機器のメモリーカードに送信します(P.9)。



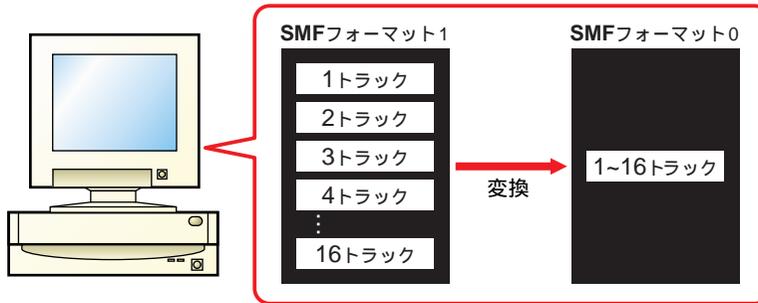
メモリーカード上のファイル編集

メモリーカード上のファイルやフォルダを削除したり、リネーム(名称変更)したりすることができます(P.11)。



SMF(スタンダードMIDIファイル)のフォーマット変換

コンピュータに保存されているフォーマット1のSMFデータを、フォーマット0のSMFデータに変換します(P.13)。



NOTE 接続に関わりなく、この操作はコンピュータ上でのみ行います。

NOTE 例えば、フォーマット0に変換したSMFデータを、ご使用のMIDI機器のメモリーカード上にファイル送信することにより、ご使用のMIDI機器のシーケンスプレイ機能を使って再生させることができます。

カードファイラーの起動

カードファイラーのインストールと必要な接続を行なった後、以下の操作でカードファイラーを起動します。

NOTE ご使用になっているコンピュータで、MIDIドライバが使用できない場合やご使用のMIDI機器が正しく接続されていない場合などは、エラーメッセージが表示されます。詳しい症状と対処方法については、後述(P.15)のエラーメッセージをご参照ください。

Windowsの場合

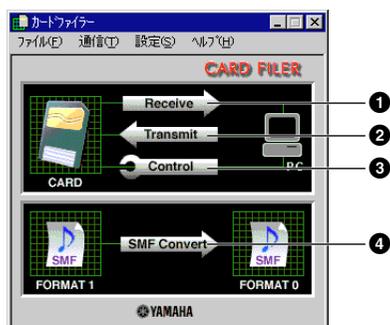
Windowsの「スタート」ボタン 「プログラム(P)」メニュー 「YAMAHA カードファイラー」から「カードファイラー」を選択します。

Macintoshの場合

NOTE Macintoshでカードファイラーをご使用になる場合は、アップルメニューのセレクトでApple Talkを[不使用]の状態にしてお使いください。

インストール先の「YAMAHA Card Filer」フォルダを開き、「Card Filer」のアイコンをダブルクリックします。

トップ画面



- ① [Receive]ボタンファイル受信画面を開きます。メモリーカード上のファイルをコンピュータに保存します(P.7)。
- ② [Transmit]ボタンファイル送信画面を開きます。コンピュータに保存されているファイルをメモリーカードに送信します(P.9)。
- ③ [Control]ボタンコントロール画面を開きます。メモリーカード上のファイル/フォルダを削除したり、リネーム(名称変更)を行います(P.11)。
- ④ [SMF Convert]ボタン ...SMF変換画面を開きます。コンピュータに保存されているSMFフォーマット1のファイルをフォーマット0に変換します(P.13)。

メニューバー

ファイル

ファイル(F)

終了(ⓧ)

カードファイラーを終了します。

通信

通信(T)

ファイル受信(R)...

トップ画面のファイル受信[Receive]ボタンと同様の機能です。

ファイル送信(T)...

トップ画面のファイル送信[Transmit]ボタンと同様の機能です。

コントロール(C)...

トップ画面のコントロール[Control]ボタンと同様の機能です。

SMF変換(S)...

トップ画面のSMF変換[SMF Convert]ボタンと同様の機能です。

設定

設定(S)

MIDIポートの設定(S)...

MIDIポートの設定ダイアログを開きます。
データの送受信を行なうために必要なMIDIドライバの設定を行います。

ヘルプ

ヘルプ(H)

マニュアル(M)

マニュアル(PDFファイル)を開きます。

バージョン情報(A)...

カードファイラーのバージョン情報などを表示します。

MIDIドライバの設定

カードファイラーが、ご使用のMIDI機器とMIDIデータを送受信するためには、まず必要なMIDIドライバの設定をします。

NOTE Macintosh版をお使いの場合は、後述のOMSの設定をご覧ください。

MIDIポートの設定(Windows)

1. [設定(S)]メニューから[MIDIポートの設定...]を選びます。

[MIDIポートの設定]ダイアログが表示されます。



2. 使用するMIDIドライバを設定します。

[MIDI IN Port]、[MIDI OUT Port]のボックス右側にある[]ボタンをクリックすると、ドロップダウンリストが表示され、それぞれ入力用/出力用のMIDIドライバを選ぶことができます。

ご使用のMIDI機器のTO HOST端子とコンピュータのシリアル端子を直接接続している場合

[MIDI IN Port]で[Yamaha CBX Driver]を、[MIDI OUT Port]で[Yamaha CBX A Driver]を選択してください。

NOTE ドライバのインストールについては、付属のCD-ROMの「Mididrv」フォルダにある「Readme_J」をご参照ください。

ご使用のMIDI機器のMIDI端子とコンピュータをMIDIインターフェース経由で接続している場合

[MIDI IN Port]、[MIDI OUT Port]ともに、お使いのMIDIインターフェースに合ったMIDIドライバを選択してください。詳しくは、お使いのMIDIインターフェースに付属の取扱説明書をご参照ください。

3. [OK]をクリックするとダイアログが閉じ、設定が有効になります。

OMSの設定(Macintosh)

カードファイラーは、OMS(Open Music System)によりデータの送受信を行いません。カードファイラーをお使いになるには、あらかじめOMSをインストールし、正しくセットアップする必要があります。

NOTE OMSのインストールについては、別冊のインストールガイドをご参照ください。

OMSについて

OMS(Open Music System)とは、MIDIアプリケーションとMIDIハードウェアやソフトウェアどうしのMIDIデータの送受信を総括的に管理するMacintoshの機能拡張です。現在、数多くのミュージックソフトメーカーがOMSを採用しており、Macintoshのミュージック環境構築の基本システムとなっています。OMSには次のような機能があります。

OMS対応のアプリケーションは、OMSを介してさまざまなハードウェア(MIDIデバイス)とコミュニケーションを行いません。これらのアプリケーションは、従来のように各アプリケーションごとのドライバを必要としません。

OMSにMIDIスタジオの構成(スタジオセットアップ)を記憶させておくだけで、OMS対応のアプリケーションはそのスタジオセットアップの設定を自動的に認識します。スタジオセットアップの設定を変更するだけで各OMS対応アプリケーションの設定は自動的に更新されます。

OMSを使用することでユーザー独自のスタジオセットアップをより簡単に構成でき、オリジナルスタジオセットアップとして保存しておくだけで、いつでもすばやくMIDIデバイスとアプリケーションソフトにアクセスすることができます。

OMSのスタジオセットアップアプリケーションを起動すると、接続されている各MIDIデバイスが自動的に認識され、画面上にイメージアイコンで表示されます。各デバイスのアイコンは名前、チャンネルと共に系統的にパッチングされます。一度OMSでセットアップされたデバイスは、チャンネルアサインやポートナンバーを意識することなく簡単にアクセスすることができます。

OMSはスタンダードMIDIインターフェースおよびマルチポートインターフェースを含め、さまざまなMIDIインターフェースに対応しています。マルチポートインターフェースを使用すると、接続されているMIDIデバイスの数に応じて多数のMIDIチャンネルを使用することが可能になります。

NOTE OMSについて、さらに詳しくはOMSに付属のマニュアルおよびREADMEファイルなどをご参照ください。

OMSのセットアップ

カードファイラーではCS6xなどのMIDI機器の標準的なセットアップファイルをあらかじめ用意しておりますので、お使いのMIDI機器に合ったファイルをお使いください。以下にCS6xのセットアップ例を示します。

1. まず、CS6xのTO HOST端子とMacintoshのシリアルポートを接続し、CS6xのHOST SELECTスイッチを“ Mac ”の位置にセットします。
2. 「OMSアプリケーション」フォルダ内にあるOMS Setupアイコンをダブルクリックして起動します。
3. [ファイル]メニューの[開く]で、「OMS Setup for YAMAHA」フォルダ内にある「CS6x-Modem」を開きます。
Performaなど、モデムポートを使用できない機種の場合は「CS6x-Printer」を開きます。
4. [ファイル]メニューの[セットアップを有効にする]を選びます。
これでCS6x用のセットアップが、現在のスタジオセットアップとして登録されます。
5. [ファイル]メニューの[終了]でOMS Setupを終了します。

NOTE カードファイラーは、OMSの2.0より古いバージョン(1.X)には対応していません。

OMSポートの設定

OMSが正しくセットアップされたら、カードファイラーを起動し、OMSポートを設定します。

1. カードファイラーのアプリケーションアイコンをダブルクリックして、カードファイラーを起動します。

NOTE Apple Talkがオンの場合は、カードファイラーの起動時にアラートが出ます。その場合「オフにする」をクリックしてください。Apple Talkの切り替えには時間がかかります。

2. カードファイラーの[設定(S)]メニューから[OMSポート設定]を選びます。
[OMSポート設定]ダイアログが表示されます。

以下はMIDI機器にCS6xを使用し、OMSのセットアップにCS6x用セットアップを使用した場合の例です。



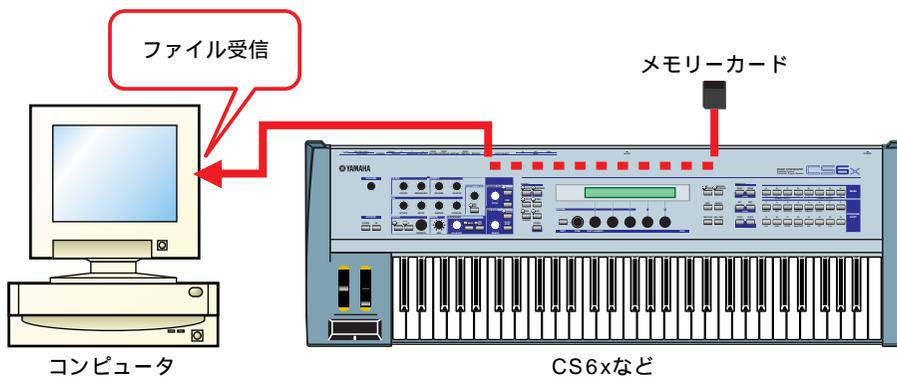
MIDI In: 「CS6x」を選択します。

MIDI Out: 「CS6x」を選択します。

3. [OK]をクリックしてOMSポート設定を終了します。

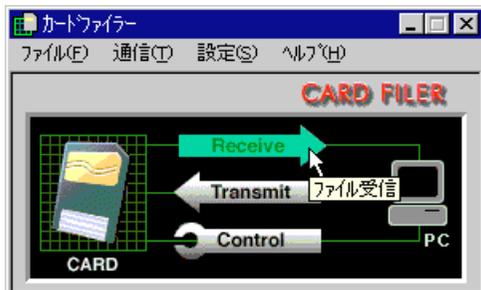
ファイル受信(コンピュータに保存する)

メモリーカード上のファイルをコンピュータに保存します。



NOTE ご使用のMIDI機器側からのバルクデータ送信操作は必要ありません。

1. トップ画面で[Receive]ボタンをクリックします。

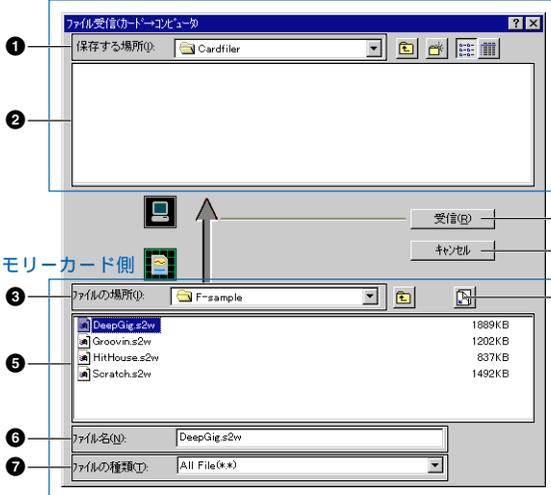


ファイル受信画面が開きます。

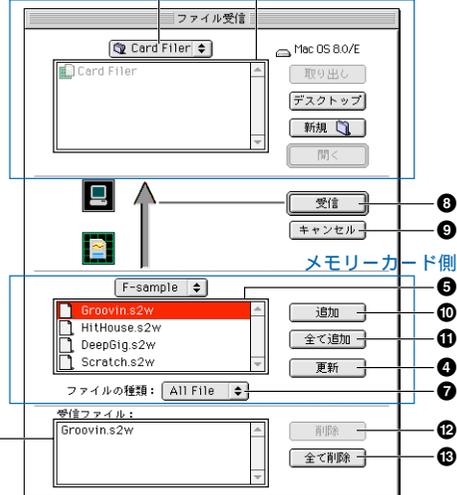
Windows

Macintosh

コンピュータ側



コンピュータ側



コンピュータ側

- ① 保存する場所 クリックすると開くドロップダウンリスト(プルダウンメニュー)の中から保存先のフォルダを選択します。
- ② リスト [保存する場所]で選ばれているフォルダ内のファイルを一覧表示します。

メモリーカード側

- ③ ファイルの場所 クリックすると開くドロップダウンリストの中から指定したいファイルのあるフォルダを選択します。
- ④ 更新ボタン クリックすると、リストの内容を最新のものへ更新して、再表示します。
- ⑤ リスト [ファイルの場所]で選ばれているフォルダ内のファイルを一覧表示します。
- ⑥ ファイル名 (受信ファイル) リスト上で現在選択されているファイル名を表示します。
- ⑦ ファイルの種類 クリックすると開くドロップダウンリストの中から、リスト上に表示させるファイルの種類を選択します。
- ⑧ 受信 ファイル受信を実行します。
- ⑨ キャンセル 作業を中止し、画面を閉じます。
- ⑩ 追加 現在メモリーカード側のリスト上で選ばれているファイルを受信ファイルのリストに追加します。
- ⑪ 全て追加 現在メモリーカード側のリスト上で選ばれているフォルダ (すべてのファイル) を受信ファイルのリストに追加します。
- ⑫ 削除 現在受信ファイルのリスト上で選ばれているファイルを削除します。
- ⑬ 全て削除 現在受信ファイルのリスト上に置かれているすべてのファイルを削除します。

2. メモリーカード側の[リスト]の中から受信したいファイルをクリックして選択します。

NOTE Macintoshをお使いの場合、メモリーカード側のリストの中から受信したいファイルを選択し、追加ボタンをクリックして下の受信ファイルのリストに登録します。

3. コンピュータ側の[保存する場所]のボックスで保存先となるフォルダを指定します。

4. [受信]をクリックすると、メモリーカードから指定したファイルが送信され、コンピュータ側でファイル受信が始まります。

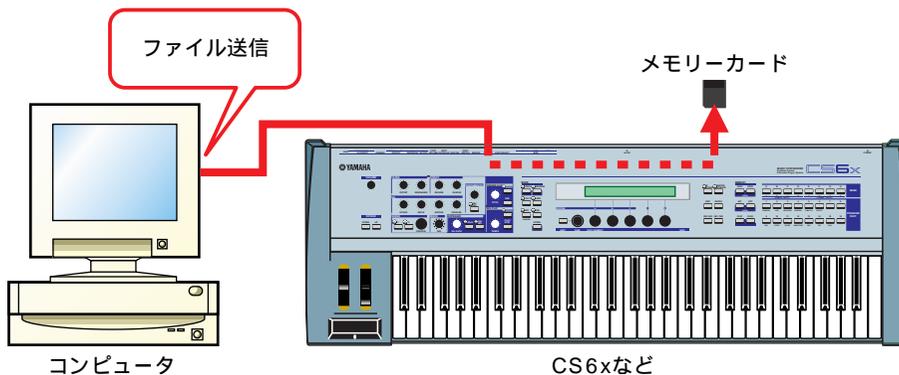
受信が終了すると、次のようなメッセージが表示されます。



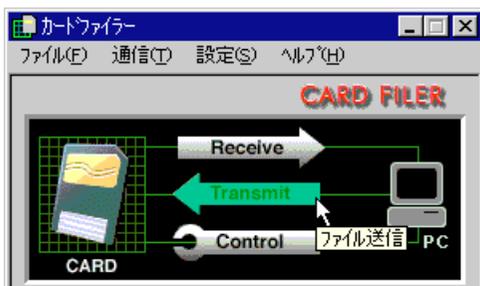
5. [OK]をクリックすると、ファイル受信画面に戻ります。

ファイル送信(メモリーカードに送信する)

コンピュータに保存されているファイルをメモリーカードに送信します。



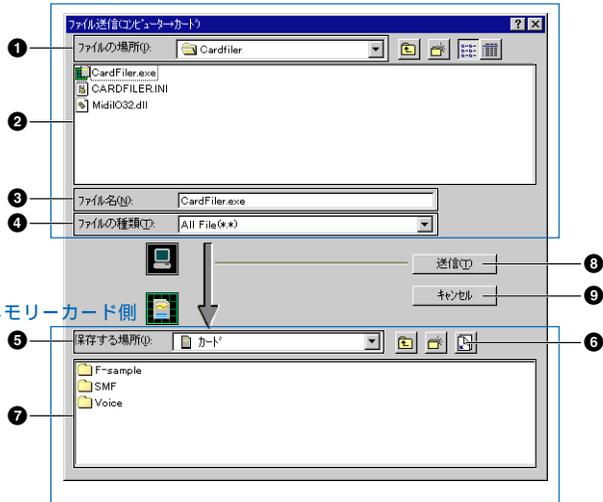
1. トップ画面で[Transmit]ボタンをクリックします。



ファイル送信画面が開きます。

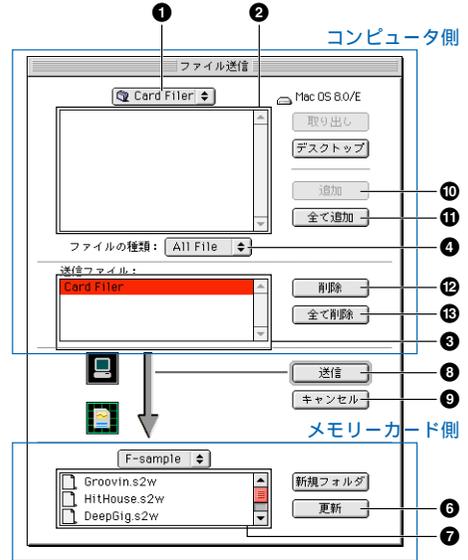
Windows

コンピュータ側



Macintosh

コンピュータ側



コンピュータ側

- ① **ファイルの場所** クリックすると開くドロップダウンリストの中から送信したいファイルのあるフォルダを選択します。
- ② **リスト** [ファイルの場所]で選ばれているフォルダ内のファイルを一覧表示します。
- ③ **ファイル名** リスト上で現在選択されているファイル名を表示します。
- ④ **ファイルの種類** クリックすると開くドロップダウンリストの中から、リスト上に表示させるファイルの種類を選択します。

メモリーカード側

- ⑤ **保存する場所** クリックすると開くドロップダウンリストの中から保存先のフォルダを選択します。
- ⑥ **更新ボタン** クリックすると、リストの内容を最新のものへ更新して、再表示します。
- ⑦ **リスト** [保存する場所]で選ばれているフォルダ内のファイルを一覧表示します。
- ⑧ **送信** ファイル送信を実行します。
- ⑨ **キャンセル** 作業を中止し、画面を閉じます。
- ⑩ **追加** 現在コンピュータ側のリスト上で選ばれているファイルを送信ファイルのリストに追加します。
- ⑪ **全て追加** 現在コンピュータ側のリスト上で選ばれているフォルダ(すべてのファイル)を送信ファイルのリストに追加します。
- ⑫ **削除** 現在送信ファイルのリスト上で選ばれているファイルを削除します。
- ⑬ **全て削除** 現在送信ファイルのリスト上に置かれているすべてのファイルを削除します。

2. コンピュータ側の[リスト]の中から送信したいファイルをクリックして選択します。

NOTE Macintoshをお使いの場合、コンピュータ側のリストの中から送信したいファイルを選択し、追加ボタンをクリックして下の送信ファイルのリストに登録します。

3. メモリーカード側の[保存する場所(1)]のボックスで保存先となるフォルダを指定します。

4. [送信]をクリックすると、コンピュータから指定したファイルが送信され、メモリーカード側でファイル受信が始まります。

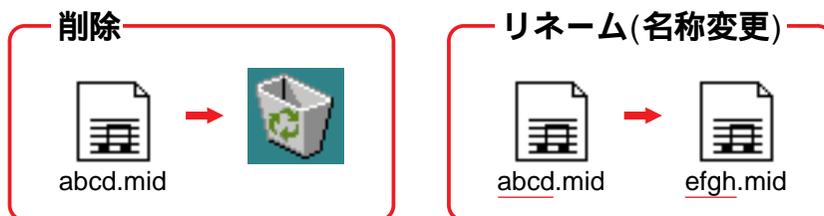
送信が終了すると、次のようなメッセージが表示されます。



5. [OK]をクリックすると、ファイル送信画面に戻ります。

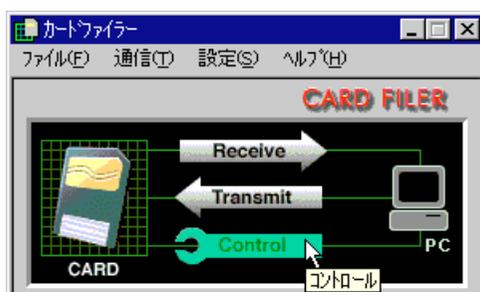
コントロール(メモリーカードの編集)

メモリーカード上のファイル/フォルダを削除したり、リネーム(名称変更)/新規フォルダ作成など、メモリーカードの編集をすることができます。

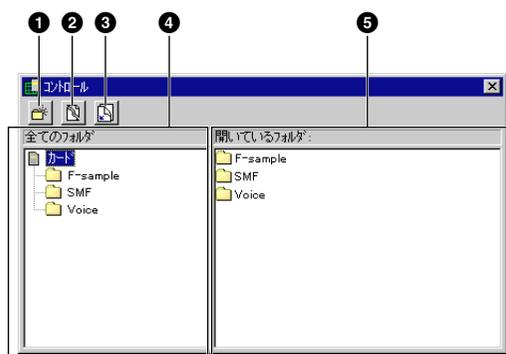


ファイル/フォルダの削除

1. トップ画面で[Control]ボタンをクリックします。

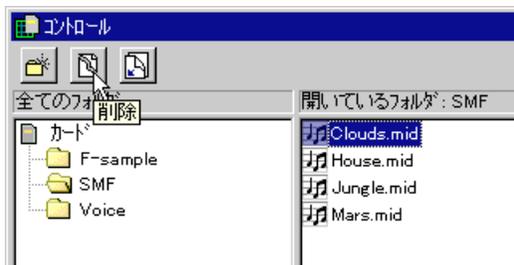


コントロール画面が開きます。

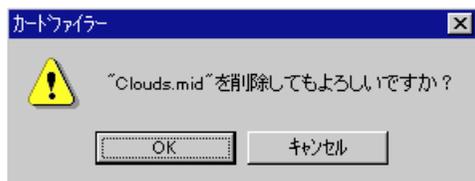


- ① 新しいフォルダの作成ボタン ...クリックすると、現在選ばれているフォルダ内に、[新しいフォルダ]という名称のフォルダが作成されます。
- ② 削除ボタンクリックすると、現在選ばれているファイル(またはフォルダ)の削除を確認するダイアログが表示されます。
- ③ 更新ボタンクリックすると、リストの内容を最新のものへ更新して、再表示します。
- ④ 全てのフォルダリストメモリーカード内の全フォルダが階層表示されます。このリストの中からクリックして選んだフォルダの内容が、右側の[開いているフォルダ]リストに表示されます。
- ⑤ 開いているフォルダリスト現在開いているフォルダ内のファイルがリスト表示されます。

- 画面上のリストの中から削除したいファイル/フォルダをクリックして選びます。



- [削除]ボタンをクリックすると、次のような確認画面が表示されます。なお、空のフォルダを選んだ場合はそのまま削除されます。



NOTE データのあるフォルダを選んでいる場合、そのまま削除することはできません。フォルダ内のファイルをすべて削除してから、フォルダの削除を実行してください。

- [OK]をクリックすると選んだファイルが削除され、コントロール画面に戻ります。なお、削除を中止する場合は[キャンセル]をクリックします。

ファイル/フォルダ名のリネーム(名称変更)

- トップ画面で[Control]ボタンをクリックします。

コントロール画面が開きます。

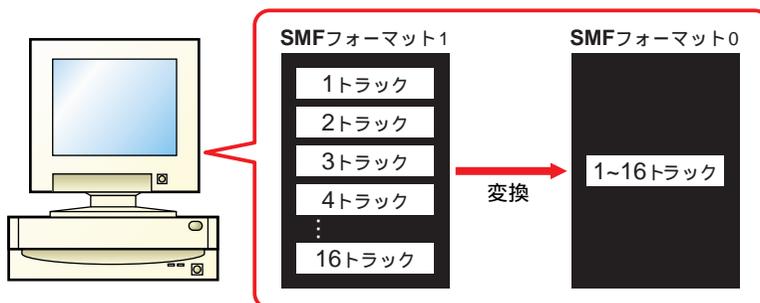
NOTE コントロール画面についてはP.11をご参照ください。

- コントロール画面のリスト上で、名前を変更したいファイル/フォルダを一度クリックして選んだ後、ファイル/フォルダ名の表示をクリックします。ファイル/フォルダ名を入力できる状態になります。
- コンピュータキーボードを使って新しい名前を直接タイプ入力し、[ENTER]キーを押すと、ファイル/フォルダ名が書き換えられます。

NOTE メモリーカード上のファイル/フォルダ名には半角英数字しか使用できません。ファイル名の指定は半角英数字で8文字+拡張子3文字以内、フォルダ名の指定は半角英数字で8文字以内で行なってください。

SMF変換

コンピュータに保存されているSMFフォーマット1のファイルをフォーマット0に変換します。この作業は、コンピュータ上でのみの操作となります。



SMFとは？

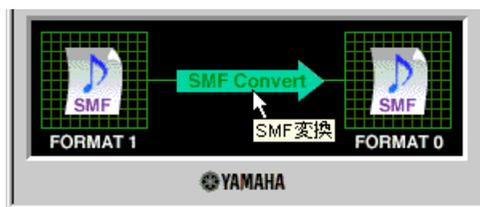
SMFはStandard MIDI File(スタンダードMIDIファイル)の略で、異なるシーケンサー間で共通のソングデータを扱うことを可能にするために作られた統一規格です。現在多くのソフトウェア/ハードウェアメーカーからSMF対応の曲データを作成/再生できるシーケンサーが提供されています。なお、SMFには3種類のフォーマットがあり、用途によって使い分けられますが、次の2種類が一般的に使われています。

フォーマット0：トラック数は1つで、その中に複数のMIDIチャンネルのデータが混在する形式です。

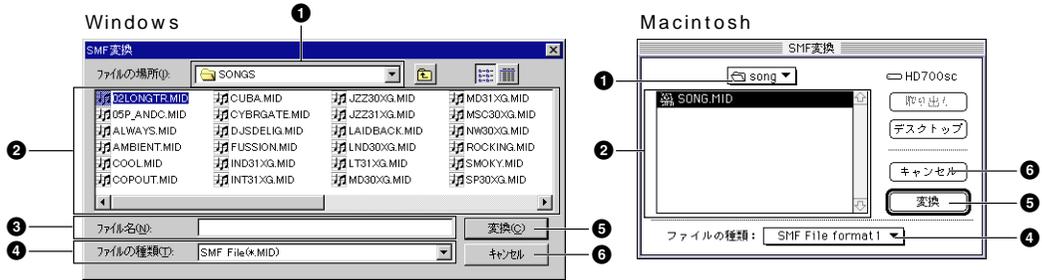
フォーマット1：複数のトラックがあり、その各トラックに複数のMIDIチャンネルのデータが混在する形式です。

カードファイラーのSMF変換機能は、SMFのフォーマット1の形式を、CS6x/CS6R/S80などで再生可能なフォーマット0の形式に変換するものです。

1. トップ画面でSMF変換[SMF Convert]ボタンをクリックします。



SMF変換画面が開きます。



- ① **ファイルの場所**クリックすると開くドロップダウンリストの中からSMF変換したいファイルのあるフォルダを選択します。
- ② **リスト**[ファイルの場所]で選ばれているフォルダ内のファイルを一覧表示します。
- ③ **ファイル名**リスト上で現在選択されているファイル名を表示します。
- ④ **ファイルの種類**クリックすると開くドロップダウンリストの中から、リスト上に表示させるファイルの種類を選択します。
- ⑤ **変換**SMF変換を実行します。
- ⑥ **キャンセル**作業を中止し、画面を閉じます。

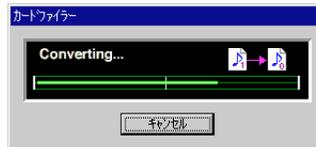
2. [リスト]の中からSMF変換したいファイルをクリックして選択します。リスト上では、**変換の対象となるSMFフォーマット1のファイルは、太字で表示されます(Windowsのみ)。**ノーマル表示されているファイルは、SMFフォーマット0のファイルかそれ以外のファイルです。

NOTE SMF変換を実行すると、元々あったフォーマット1のファイルがフォーマット0のファイルに書き換えられてしまうため、フォーマット1のファイルは残りません。必要に応じて、あらかじめフォーマット1のファイルのコピーを作成しておきましょう。

3. [変換]をクリックすると、次のような確認画面が表示されます。



[OK]をクリックすると、SMF変換が始まります。



SMF変換が終了すると、次のようなメッセージが表示されます。



4. [OK]をクリックすると、SMF変換画面に戻ります。

エラーメッセージリスト

「指定されたMIDIデバイスはすでに使われています。他のアプリケーションを終了してください。」

他のアプリケーションでMIDIドライバが使われている状態で、カードファイラーを起動しようとする则表示されます。[OK]をクリックし、MIDIドライバを使用している他のMIDIアプリケーション(シーケンスソフトなど)を終了させてから、もう一度カードファイラーを起動して下さい。

「MIDIデバイスがありません。MIDIデバイスの設定を確認して下さい。」

MIDIドライバ(YAMAHA CBX Driver)が正しくインストール/設定されていません。CD-ROMの「Mididrv」フォルダにある「readmeJ」の手順に従って、YAMAHA CBX Driverをインストールし、COMポートなどの設定を正しく行なって下さい。

「OMSがインストールされていません。」

OMSをインストールし、「OMSの設定」(P.6)に従って正しく設定を行なって下さい。

「通信に失敗しました。MIDI機器が正しく接続されていること(ホストセレクトの設定など)を確認してください。」

以下のことを確認して、操作をやり直して下さい。

- ・ ご使用のMIDI機器とコンピューターが正しく接続されていますか？
ご使用のMIDI機器の取扱説明書に従って、正しく接続して下さい。
- ・ ご使用のMIDI機器の電源は入っていますか？
電源をONにしてください。
- ・ ご使用のMIDI機器のHOST SELECTスイッチが正しく設定されていますか？
ご使用のMIDI機器の取扱説明書に従って、正しく設定して下さい。
- ・ MIDIドライバの設定は正しいですか？(Windows版)
CD-ROMの「Mididrv」フォルダにある「Readme_J」の手順に従って、YAMAHA CBX Driverをインストールし、正しく設定を行なって下さい。
- ・ OMSの設定は正しいですか？(Macintosh版)
「OMSの設定」(P.6)に従って正しく設定を行なって下さい。

「通信できないモードになっています。[Exit]ボタンなどを押して通信できるモードにしてください。」

ご使用のMIDI機器が、ソングの再生中、録音中、録音スタンバイ状態であったり、JOBの実行中であるなど、何らかの理由で通信できない状態であることを示しています。一度、通信できない状態を解除してから操作をやり直して下さい。

NOTE ご使用のMIDI機器によって通信できない状態は異なります。

「***.***(ファイル名)を作成できません。空ディスク領域が足りません。いくつかのファイルを削除して空き領域を増やしてから、やり直して下さい。」**

空き容量のないディスクやカードに、ファイルを保存しようとしてしました。不要なファイルを削除するなどして空き容量を確保し、操作し直して下さい。

「ファイル名の指定は、8文字+拡張子3文字以内、半角文字で指定して下さい。」

カード上のファイル名やフォルダ名には、ひらがなや漢字などの全角文字、半角カタカナ文字、スペース(空白)などを使用することができません。また、文字数もファイル名は8文字+拡張子3文字、フォルダ名は8文字に制限されています。カード上のファイル名やフォルダ名は、制限文字数内で、半角英数字で指定して下さい。